図書だより

第 9 号
令和6年度
図書委員会

1月

睦月(むつき)
初春月(はつはるづき)　早緑月(さみどりづき)
月名の由来:新年、人々が集まって睦び合う、つまり仲良くする・親しくすることから。

今月の一言

新聞紙の「ぶんくん」

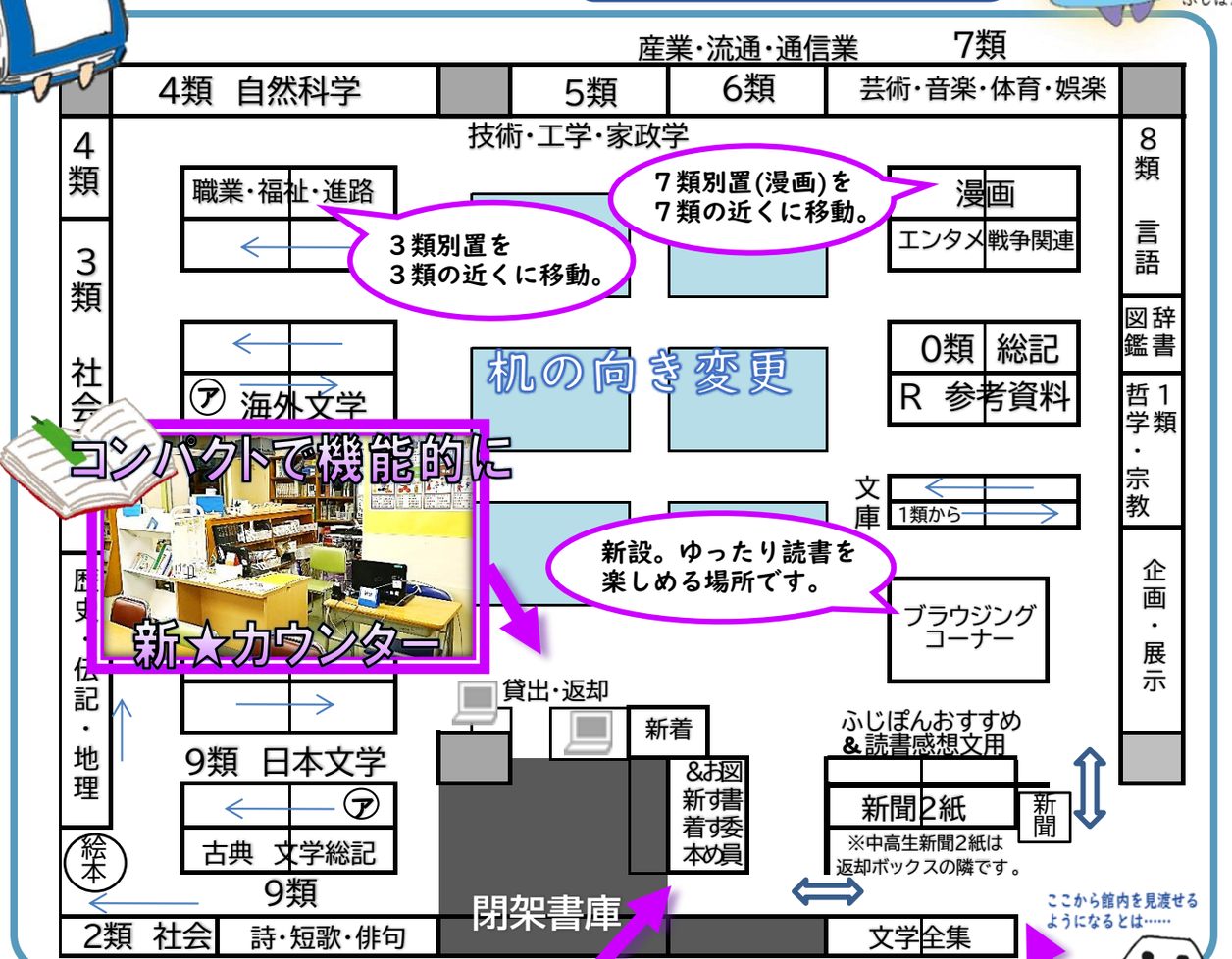
正当な怒りにしか守れないものがある

QR コード付

新しくなったよー

学校図書館のレイアウトを見直し、より利用しやすい空間に変更しました。広くなったような錯覚、体験してみてください。錯覚です。

ごらいこー & ふじぽん



コンパクトで機能的に

新★カウンター

推し本＆注目の新着コーナー

ひろびろ
入口に　スペース確保

出入口が二か所に！

回遊可能空間を実現

この本のこの言葉にはこんな力がある

言葉の力を信じる

昨年、司書教諭龍が書き初めました

私たちは武力や権力ではなく「伝え合うための言葉」を武器にして闘い、様々な権利や価値観、新しい未来、社会を創り出してきました。
その歴史は、多くの書物が教えてくれています。
図書委員が「言葉の力を信じて未来を切り拓いていこう」と思える本を選び、館内に展示しました。今回は３年生図書委員の展示を掲載します。

「言葉の力を信じる」本　題名
手で見るぼくの世界は　913 カ
著者名　樫崎茜
言葉の力
「両手を使えば，世界が広がるよ」
主人公の少年は，幼い頃に視力をほとんど失った。だから少年は，手で感じ，耳で聞いて世界を知る。片手だけの世界は狭い。同様に，一方的な考えや先入観は，自分の世界を狭めるのだ。ある事件から人を怖がる友人を励ますため，少年は両手で世界を見る。富士中学校図書委員

「言葉の力を信じる」本　題名
飛ぶ教室　913 ケ
著者名　エーリヒ・ケストナー
言葉の力
「子どもの涙はおとなの涙よりちいさいなんてことはない．おとなの涙より重いことだっていくらでもある」
これはこの物語の冒頭からかかれている言葉です．登場人物の年齢がちょうど今の私たちと近く，かかえる悩みや思いに通ずるものがあります．なぜこの言葉が必要になったか，ぜひたしかめてみて下さい．
富士中学校図書委員

「言葉の力を信じる」本　題名
西の魔女が死んだ　913 ナ
著者名　梨木香歩
言葉の力
「おばあちゃん，大好き」「アイ，ノウ」主人公まいとおばあちゃんが交わしてきたこの言葉。しかし，あることをきっかけに，まいはこの言葉を伝えられなくなってしまう。おばあちゃんの死をきっかけに，おばあちゃんの大きな愛を感じる。
富士中学校図書委員

「言葉の力を信じる」本　題名
52ヘルツのクジラたち　913 マ
著者名　町田そのこ
言葉の力
「その魂の番に出会うまで，わたしが守るよ」という主人公貴瑚が虐待を受けている少年「52」に伝えた言葉があります。貴瑚も昔親に虐待を受けていて，それを救ってくれた大切な人物を救えなかったことを後悔しています。今度こそ「52」を救うという決意が感じられる力強い言葉に「52」は安心と喜びを感じ，そして救われた気がしました。なにげない言葉でも，人の気持ちを変えるには大きなものがあると感じました。
富士中学校図書委員

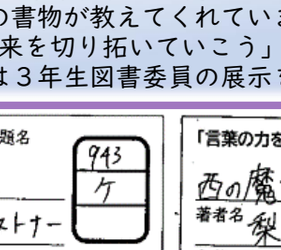
「言葉の力を信じる」本　題名
舟を編む　913 ミ
著者名　三浦しをん
言葉の力
「言葉とつながりたくて，広大な海を渡ろうとする人たちに捧げる辞書それが大渡海です。」
新しい辞書「大渡海」の完成へ奮闘し，辞書「舟」を編纂する「編む」人たちの感動小説。やり遂げることの尊さ，言葉の美しさなど，主人公馬締光也をはじめとした個性的な登場人物が伝えてくれます。
巻ごとに視点が変わり感情移入しやすく，479ページとは思えないほど魅力が満載です！
富士中学校図書委員

「言葉の力を信じる」本　題名
活版印刷三日月堂　913 ホ 1
著者名　ほしおさなえ
言葉の力
活版印刷三日月堂店主である弓子と，小説を抱える客との物語
人との絆の美しさや，活版印刷の美しさがこの本を読んで伝わってきます
『活版印刷』という力の言葉を信じる人々の物語
富士中学校図書委員

他の本の紹介文は、次号以降に掲載予定です。
実物と本は展示してあります。気になる言葉に出合えたら、本を手に取って読んでみてください。

企画本は今までと同じ場所に展示中

道徳通信と NIE のコーナーもあります。



司書教諭蛇が書き初めました。
「光る君へ」に影響を受け、何年かぶりに墨を磨り、紙も横長にして書きました。

やはり磨った墨は、いい。しかし仮名は難しい……。

今年の書き初めは**「生きるために物語る」**。近年「ナラティブ(物語・語ること)」という言葉をよく見聞きするようになりました。理解や説明は難しいのですが、いやおうなしに私たちは自分や誰かによる「ナラティブ」の中で生きている。物語には力がある。その力が、多くの人が生きやすい世界になるために使われることを願う。そんな想いを込めました。

今年も多くの方の富士中学校図書館のご利用、お待ちしています。